

## 令和3年度 第3回久留米市食育推進会議 議事録

日 時：令和3年12月21日（火） 14：00～15：40

場 所：久留米シティプラザ5階大会議室2・3

出席者：中島 年隆会長、山下副会長、古賀委員、佐野委員、山下 経男委員、坂本委員、早川委員、小高委員、高原委員、中村委員、高田委員、宮地委員、山崎委員、梅本委員、吉田委員、山口委員

（欠席者：田中委員、山下 伸子委員、佐藤委員、中島誠二委員、豊福委員、甲斐田委員、秦委員）

事務局：農政部農業の魅力促進課 林田課長、古賀主幹、小形課長補佐、鉄川主査、  
子ども未来部子ども保育課 馬田補佐、相浦技術主査  
子ども未来部こども子育てサポートセンター 小宮主事  
教育部学校教育課 吉田指導主事  
学校保健課 小野課長、松延指導主事  
健康福祉部保健所健康推進課 柴尾課長、重永主任主事、  
環境部資源循環推進課 松永課長、別府主事

傍聴者：なし

- 次 第：1. 会長あいさつ  
2. 協議事項  
（1）第4次食育推進プラン素案  
（2）第4次食育推進プラン策定スケジュール  
3. その他  
（1）くるめ食育パネル展

議 事：

## 1 会長 あいさつ

会長	挨拶
----	----

## 2 協議事項

### (1) 第4次食育推進プラン素案

A委員	前回、前々回の会議で説明したため、今日の説明では省略された4ページの「第2章 久留米市の食育推進の現状と課題」の、「第1節 第3次プランの成果と課題」の部分で、それぞれの施策毎の目標指標の達成度等が表でまとめられている中で、その表の前文の冒頭部分に「第3次プランの目標指標の達成状況は全15項目中、云々」と記載されている。確かに掲載されている各基本施策と共通施策の目標指標の番号を足し合わせると、15項目になるが、4ページの基本施策Ⅰの7番目の項目と5ページ基本施策Ⅱの2番目の項目は、「朝食又は夕食を家族と一緒に食べる3歳児の1週間当たりの「共食」の回数」で同じ内容となっている。そのため、項目数としては15項目ではあるが、内容としては1項目重複していることを、冒頭部分の文書や重複する項目が含まれる評価結果の部分の文書でも、その旨の説明等があった方がよいのではないかと。
会長	基本施策Ⅰの7項目目と基本施策Ⅱの2項目目の目標指標の内容が同じであるため、文書中に脚注をつけるか、改めて表現するなどして、工夫して表記するようお願いする。
事務局	ご指摘のとおり、重複している指標項目がある。副会長が言われたように、記載内容を整理し、改めて分かりやすい文書として表現させていただきたいと考えている。
A委員	基本施策Ⅰ「生きる力を育む食育」のまずは、19ページの個別施策2の⑤の事業の目標指標について、保護者に対して2種類以上の食育啓発を行う保育所、幼稚園、認定こども園の令和2年度の数値はコロナにより実施できずに下がったとのことだが、令和元年は96園中92園とかなり達成しているもので、次の4年間もこの指標で良いのか。 次に、18ページの個別施策1の④の事業について、各園で適切な給食の提供が行われるよう食事計画や献立作成時に必要な情報の提供や研修を実施しますとあるが、幼稚園は自園調理でされているばかりではない。外部業者の弁当（外部搬入弁当）あるがどうか。
事務局	保育園、幼稚園で自園調理しているところがある。直営だけでなく委託業者で実施しているところもある。
A委員	幼稚園は自園調理しているところばかりではない。外部搬入の弁当のところにはどのように介入していかれるのか、支援をしていかれるのか。保育所や認定こども園は市の献立を実施していると思うが違うか。
事務局	子ども保育課で作成している献立があり、それを活用するのかもしれないのかは園の判断となる

A委員	文言の献立作成や研修はそこにいきってくるのだろう。給食を外部から搬入するのは幼稚園が多いと思う。そこへの具体的に支援をするのか、この内容ではわからない。この文章ではどのように支援していくのか足りないように思う。
会長	目標指標の2「種類以上というところ」はもう1歩踏みことができるのか、検討の余地があるのかどうか。保育園、幼稚園、認定こども園の相手方があることなので、このままでいくのかどうかも踏まえて検討をお願いします。
B委員	基本施策Ⅲ「食と農への理解を促進する食育」に関連して、久留米市食生活改善推進員協議会として、地産地消の啓発を行っており、コロナ禍の前までは、各地区コミュニティセンターで料理講習会を開催してきていた。コロナ禍になり、啓発の手法が変わって、動画による配信で行うことになり、2回ほど調理動画の撮影に食進会も協力した。その際に使用した「サラダ菜」について、福岡県は全国有数の生産量を誇っており、その中でも久留米市が1番採れると聞いたが、実際にサラダ菜を購入すると、何店舗が探したが見当たらず、お店の方からは「サラダ菜は売れない」と言われた。野菜が多くある道の駅くるめでも販売はされていなかった。「サラダ菜」はレタス類の1種だが栄養価も高く、久留米市で多く生産されているものだが、どうして市内の店舗や道の駅くるめなどで販売されていないのか。
事務局	久留米市は、「サラダ菜」の全国有数の産地である。サラダ菜の生産者はJAの生産部会に入っており、生産されるサラダ菜を全てJAに出荷している。JAに集荷されたサラダ菜は、市内ではなく、そのほとんどが東京や大阪、福岡などの大都市圏の市場に出荷され、そこから市内へ逆に入ってきているような状況で、市内における流通量は少ない状態となっている。そのような状況のため、私たちは、市民のサラダ菜の認知度を上げるためのPR等を行ってきており、徐々にではあるが上がりつつあるところだが、まだまだ低い状況にある。食進会の皆さまには、今後は、生食に限らないサラダ菜の食べ方の提案などを一緒に考えていただき、市民への啓発にご協力いただいて、市民のサラダ菜の認知度が上がれば、市内での消費量・流通量が増えてくるのではないかと考えている。
会長	市民に対して、市内でどのような農産物が生産されていて、食材として活用できるということがよくわかり、体験できるような取組を1つお願いしたい。
C委員	個別施策1の目標指標である農業体験や学童農園への参加者数の令和7年度の目標数である23,200人の計算の根拠を教えてください。
事務局	この指標につきましては、第3期久留米市食料・農業・農村基本計画の中の目標項目の数値と同じ。根拠としては、対して、体験交流や学童農園への参加人数で、農業の魅力促進課が所管している農業公園での農業体験事業、生産流通課が所管している体験交流事業、学童農園事業、土づくり広場農作業体験事業への参加者数から目標値を設定している。令和2年度実績は12,778人だったが、令和元年度は20,239人だった。昨年度の人数の落ち込みは、コロナ禍で事業ができなかったことが挙げられる。

会長	目標指標についても、令和元年度の実績値があつて、コロナ禍で令和2年度が大幅に下降したものについては、参考数値として、令和元年度の数値も記載してはどうか、検討して欲しい。
D委員	小学校で学童農園を毎年実施おり、児童が農業体験できることを感謝している。田主丸地区は、ブドウ・柿・米の生産が多くて、それらの生産農家との触れ合いが行われていた地域のお祭り等がコロナ禍の影響が無くなっている。しかし、地域の方に聞くと今後、コロナが終息しても実施できないのではないかと言われた。その根拠としては、補助金の問題があると言われた。個別施策1の①に「農業まつりなどの開催～」とあるが、こちらに今まで行ってきた地域の祭りなどを加えることは可能なのか。そうなれば、参加人数は目標数をもっとすごい人数になるのではと考える。
事務局	記載している「農業まつりなどの開催による生産者と消費者の交流～」について、ふるさとくるめ農業まつりに限らず、JA毎に実施している農業まつりや、各校区においても特産物を使った祭りも開催されており、田主丸町や三瀨町、城島町においても地域の祭りが実施されていることは認識しているので、どのように記載したほうが良いのかは、検討したい。補助金については、どの祭りにどこの部局からだされているのかは把握していない。
E委員	全体を通して、半年ぶり位に会った知人の女子高生が、急に痩せて老けて見えた。その女子高生は糖質を制限するダイエットに取り組んで、痩せたことに喜んでいたが、高校生らしい若さが無くなっていた。また、別の女性の友達にも、エステ等にお金をかけて、外見には気をつけても、食生活には全く無頓着な人がいる。野菜には栄養素がしっかり入っているので、日々の食生活をきちんととれば、綺麗になることができるのに、そのことを知らないまま成長している人が多いように感じる。学校や家庭で、ちゃんと指導してほしいと思う。
会長	各施策の中でも説明してきたように各家庭や地域と連携して、食育を推進に取り組むこととしている。食べ物を食べるということを習慣づけることで、身体の中からちゃんとした成長が望めるし、必要な栄養素は食事で摂っていくことを教える必要がある。どんな栄養を摂れば成長が維持できる、健全な毎日が過ごせるかなどを含めて、学校や保育所、幼稚園でも生徒たちへ栄養教諭等がきちんと教えていってほしい。家庭での日々の食習慣が大事なのではないかと思う。朝・夕、食卓を一緒にすることで対話をして、考えてほしい。食育をみんなに普及させて、知っていただく、そして実践につなげていくために、委員皆さまのご協力をお願いしたい。
F委員	高校でも食については、ダイエット等の心配がある。本校では、健康推進課の管理栄養士を招いて、毎年、食育講座を実施している。1年生全クラスで1時間ずつ家庭科の時間に実施している。私は今年一緒に受講したが、食の大事さや先ほど説明があつた動画配信によるレシピの紹介など、生徒たちは真剣に受講していて、良い取組だと思っている。色々な取組を生徒たちが経験することで、きっかけとなったと思うし、中村さんかわれていることが改善できればと思う。

(2) 第4次食育推進プラン策定スケジュール

説明：鉄川主査

3 その他

(1) くるめ食育パネル展

説明：鉄川主査

会長	クイズに応募してきた実績は分かるか。
事務局	ゆめタウン久留米では13名、JR久留米駅東西通路では22名の応募があった。